



幸田町長  
おおくあひさつ  
大須賀一誠

新年明けましておめでとございます。

町民の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

人口減少、少子高齢化が問題となっている社会情勢の中で、本町は区画整理などの取り組みによって人口が増加し続けており、昨年11月には4万1千人を越えました。

子育て・教育基盤の整備としては、幸田みやこ認定こども園が昨年4月に開園したのを始め、深溝第2児童クラブの新設を行ったほか、今年の2月末には坂崎小学校校舎増築工事が完了する予定です。また北部中学校の増築に向けた実施設計も進めています。

そして、現在、六栗に建設中の多世代交流施設「豊坂ほっと館」が4月に開館予定です。遊戯室や図書室、集会施設などを備えており、

さまざまな世代や地域の人たちが交流する場となることを期待しています。

障がいのある人・高齢者の生活支援体制の強化としましては、昨



多世代交流施設の外觀イメージ

年4月に、さまざまな課題を抱える障がい者や家族に対する的確な対応と支援体制の整備を目的に、基幹相談支援センターを設置しました。また、社会福祉全般では高齢者や障がい者などへの権利擁護に関する支援として、成年後見支援センターを設置し、住み慣れた地域で安心・安全な生活が継続できる地域支援体制の整備を進めました。

そして、島原藩主深溝松平家の歴史的なつながりにより育まれてきた、長崎県島原市との友好関係をさらに推進するため、昨年10月11日に姉妹都市提携の調印式を行いました。産業まつりなどで行った島原市物産展も大変好評をいただきました。今後も継続的な交流を進めていきます。

また、本町の文化拠点として、町民の文化交流に寄与してきた町民会館につきましては、開館から20年が経過しましたが、今後もより多くの町民の皆さまに長く利用していただく

ために、さくらホール・つばきホール音響照明設備の改修など大規模改修を進めています。先駆的な取り組みとしましては、昨年10月と11月に町民会館周辺で自動運転車の公道実験を実施し、町民の皆さまにも試乗体験をしていただきました。さらに、12月には愛知県の事業において、全国初の遠隔型自動運転システムによる実証実験を行いました。

多文化共生、国際化の推進における新たな取り組みとしまして、本年3月に10人の高校生をカンボジア王国シエムリアップ州に派遣します。現地で運動会や修学旅行を企画・実施すること、トラキエット小学校を拠点とした地域の教育意識の向上を図るとともに、広い視野と国際感覚を持った人材を育成し、多文化共生への理解を深め、外国人も住みやすいまちづくりにつながるよう、取り組んでまいります。

本年も、まちづくりの基本指針であります、第6次幸田町総合計画の基本理念「人と自然と産業の調和」に基づき、将来像「みんなで作る元気な幸田」の実現に向けて、全力で取り組んでまいりますので、町政への変わりぬご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまのご健勝とご多幸を祈念し、年頭のごあいさつといたします。